

第7回 景観エリアマネジメント講座の様子



尼崎 博正 氏 (京都造形芸術大学教授
京都造形芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター所長)
「京都の庭と風致～七代目小川治兵衛(植治)を中心に～」

先人の遺した京都の庭の景観も、京都らしさの原点の一つです。人工と自然のはざまで先人は何を育んできたのか、どういった観点から庭園を作ったのか。庭園の持つ本質に迫ります。



矢ヶ崎 善太郎 氏
(京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科 准教授)
「京都の数寄の文化」

数寄の文化と空間は常に独自の表現を創造してきた京都を知る上で大変重要な要素といえます。庭園や茶の文化との接点にあるとも言え、京都の景観を知る上で現代においても尚意味を持つものと考えられます。



西川 影戀 氏
(表千家講師・帝塚山大学講師
日舞西川流師範・京都おもてなし大使)
「京都の文化 作法とおもてなしの心」

茶の心はおもてなしの心。茶の作法は形式的なものだけでなく客人を迎える空間を総合的にプロデュースすることではないかとお話を伺っていて思いました。さて、現代の私たちはどういった景観をマネジメントすべきでしょうか。課題は山積です。



懇親会

打ち解けた雰囲気の中で講師陣と参加者の本音！？トークが展開されました。